

- 問1 2019年に制定された「アイヌ施策推進法」では、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。アイヌ民族が日本の先住民族であることを認め、その独自の伝統や文化を維持・振興することで実現しようとしている、多様な背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)

1. 高度情報化社会

2. 持続可能な社会

3. 多文化共生社会

4. 中央集権社会
- 問2 縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。 (2026年 熊本県公立入試 類似)

1. 銅鐸

2. 石包丁

3. 土偶

4. 埴輪
- 問3 縄文時代において、人々が定住生活を送る中で作り出した遺物のうち、表面に縄目の文様が見られることが多く、食物を煮たり保存したりするために活用された道具の名称とその特徴として適切なものはどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 古墳の頂上や周囲に並べられた、人物や馬の形をした埴輪

2. 高温で焼かれた灰色で硬い、貯蔵用の須恵器

3. 薄手で赤褐色をしており、文様が少なく実用的な弥生土器

4. 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器
- 問4 日本の北方に位置する地域に古くから居住する先住民族と、その文化に関する記述として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)

1. 沖縄などの南西諸島を中心に独自の王国を築き、中国や東南アジアとの中継貿易によって繁栄した。

2. 古代に朝鮮半島や中国大陆から移住し、日本列島に稲作や青銅器・鉄器などの進んだ技術を伝えた。

3. 平安時代以前に東北地方に住み、朝廷の支配拡大に対して抵抗を続けたことで「蝦夷(えみし)」と呼ばれた。

4. 北海道や千島列島などを主な居住範囲とし、シリエトク(知床)などの地名の由来にもなっている独自の言語を持つ。
- 問5 縄文時代に作られた土偶の中には、わざと体の一部を壊した状態で発見されるものがあります。このような特徴から推測される、土偶が作られた目的として最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)

1. 大陸から伝わった高度な彫刻技術を模倣しようとして、失敗したものを廃棄した残骸。

2. 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。

3. 集落間の争いにおいて、倒した敵の姿を土偶に投影し、戦勝を記念して破壊する儀礼用。

4. 土器を作る技術が未熟であったため、焼成の過程で自然に壊れてしまうことを前提とした観賞用。
- 問6 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。 (2025年 北海道公立入試 類似)

1. 岩宿遺跡

2. 三内丸山遺跡

3. 登呂遺跡

4. 吉野ヶ里遺跡
- 問7 縄文時代の遺跡において、海岸や水辺に近い集落付近で見つかる、食べた後の貝殻や魚の骨、破損した土器などが堆積した場所を何といいますか。当時の人々の「ゴミ捨て場」としての性格を持ち、生活の痕跡(生活跡)を現代に伝えるものを選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)

1. 高床倉庫

2. 貝塚

3. 環濠集落

4. 古墳
- 問8 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床(しれとこ)」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)

1. 渡来人

2. アイヌ民族

3. 蝦夷(えみし)

4. 琉球民族
- 問9 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)

1. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。

2. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。

3. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。

4. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。
- 問10 縄文時代の遺跡から発見される、人間を模した土製品(土偶)に関する記述として、当時の人々の暮らしや考え方を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 米作りの儀式において、神の依代として用いられた青銅製の道具である

2. 亡くなった豪族の権威を示すため、巨大な墓の周辺に副葬品として配置された

3. 定住生活が始まったことで、集落の入り口に魔除けとして立てられた石像である

4. 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された
- 問11 日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)

1. 登呂遺跡 — 弥生時代

2. 三内丸山遺跡 — 縄文時代

3. 三内丸山遺跡 — 弥生時代

4. 吉野ヶ里遺跡 — 弥生時代
- 問12 縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)

1. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。

2. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。

3. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した石製品である。

4. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。
- 問13 約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された

2. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた

3. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した

4. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた
- 問14 約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。 (2019年 千葉県公立入試 類似)

1. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された

2. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった

3. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた

4. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった

答え合わせ・解説

問1	答え 3 多文化共生社会	アイヌ民族は長年、同化政策などによって独自の文化を制限されてきた歴史があります。しかし現在では、そのアイデンティティを尊重し、異なる文化を持つ人々が互いに理解を深めながら対等な関係で共に生きていく「多文化共生社会」の実現が、人権保障や民主主義の観点から重要な目標とされています。
問2	答え 3 土偶	縄文時代につくられた素焼きの人形は土偶と呼ばれます。豊かな収穫や魔除けなどを祈る道具として用いられました。古墳時代につくられた埴輪や、弥生時代につくられた銅鐸との違いを押さえることが大切です。
問3	答え 4 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器	縄文時代の人々は、定住生活を営む中で土器を発明しました。この土器は低温で焼かれるため厚手で黒褐色になるのが特徴です。煮炊きが可能になったことで、それまで食べられなかった植物の灰汁（あく）を除いたり、固いものを柔らかくしたりして食べられるようになり、食生活が安定しました。
問4	答え 4 北海道や千島列島などを主な居住範囲とし、シリエトク（知床）などの地名の由来にもなっている独自の言語を持つ。	アイヌの人々は北海道、樺太、千島列島といった北方の地域を生活圏としてきた先住民族です。彼らは文字を持たない独自の言語を口承で伝えてきましたが、その痕跡は現代でも多くの地名の中に残されています。一方、選択肢にある琉球民族は南西諸島、渡来人は古代の技術伝達、蝦夷は主に東北地方の人々を指す言葉であり、地域や歴史的背景が異なります。
問5	答え 2 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。	土偶の多くが女性を模しているのは、新しい生命を生み出す女性の力が、大地の豊かな実りと結びつけられていたためと考えられています。また、出土する土偶の多くが破損している理由については、自分の病気や怪我の場所と同じ部分を壊すことで、回復を祈る「身代わり」としての呪術的な儀式に使われたという説が有力です。これは当時の人々にとって、土器作りや土偶作りが生活に密着した切実な信仰の一部であったことを示しています。
問6	答え 2 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問7	答え 2 貝塚	縄文時代の人々が日常の生活で出た不要物を捨てた場所です。単なるゴミ捨て場としての機能だけでなく、食べ残された骨や貝殻から、当時の人々がどのような動植物を食べていたか、あるいは当時の気候や海岸線の位置がどこにあったかを知るための貴重な史料となります。
問8	答え 2 アイヌ民族	北海道や樺太、千島列島などの先住民族であるアイヌの人々は、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育んできました。彼らの言語であるアイヌ語は、北海道の多くの地名の語源となっており、「知床」が「シリエトク（大地の突き出た先）」に由来するほか、札幌や小樽などもアイヌ語に漢字を当てはめた地名として知られています。
問9	答え 4 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。	約1万年前に氷河期が終わり気候が温暖になると、日本の植林や動物の生態が変化し、人々は定住生活を営むようになりました。この時期に登場したのが、より精巧な磨製石器や、食料の調理・保存に欠かせない土器です。打製石器は旧石器時代から継続して使われましたが、磨製石器の普及は縄文時代の大きな技術的特徴です。
問10	答え 4 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された	縄文時代の人々は狩猟や採集によって生活していたため、自然の豊かさは生存に直結する重要な要素でした。土偶が壊された状態で発見されることも多いことから、病気や怪我を土偶に移して平癒を祈ったり、食べ物の豊作や安産を祈ったりする宗教的な儀式に使われていたと考えられています。選択肢にある「古墳の周辺に配置」されるのは埴輪であり、土偶とは時代も目的も異なります。
問11	答え 2 三内丸山遺跡 ― 縄文時代	青森県で発見されたこの遺跡は、縄文時代における日本最大級の集落跡です。大型の掘立柱建物や多数の竪穴住居の跡が見つかっており、当時の定住生活の様子を詳しく伝える重要な史跡です。佐賀県の吉野ヶ里遺跡や静岡県県の登呂遺跡は、いずれも弥生時代の代表的な遺跡であり、縄文時代には含まれません。
問12	答え 4 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。	土偶と埴輪はどちらも人型の土製品ですが、時代と役割が大きく異なります。土偶は縄文時代の狩猟・採集社会において、生命の誕生や自然の恵みを祈る宗教的な道具として機能しました。一方、埴輪は古墳時代に現れ、王や有力者の墓である古墳を飾り、その聖域を守る役割や、葬送の儀礼のために立て並べられました。
問13	答え 2 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問14	答え 3 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた	約1万年前に氷期が終わり、地球全体の気候が温暖化しました。その結果、大陸の氷河が溶けて海面が上昇し、それまでユーラシア大陸と地続きだった部分が海に沈んだことで、日本列島は現在のような島国の姿になりました。この環境の変化が縄文時代の始まりに大きく寄与しています。